

活動記録書

開催日： 令和4年9月1日(木) 天候：晴	開催テーマ： 文覚上人・義明・政子を偲ぶ
開催場所： 鎌倉市	記入者： 熊谷 滋子
参加人数： 会員 24名、準会員 1名、ビジター 1名 合計 26名	
<p>実施内容(実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など)： コース：光明寺バス停(集合)～ 補陀洛寺(昇堂・法話)～ 實相寺 ～ 来迎寺 ～ 安養院～ JR 鎌倉駅(解散)</p> <p>当日は晴れの予報であったが、集合場所に向う途中土砂降りで、午前中の天気が気になる中の探訪出発であった。</p> <p>最初に訪れた補陀絡寺では会員の方の御尽力により昇堂、法話を拝聴する事ができた。</p> <p>補陀洛寺は頼朝の打倒平家の祈願所として文覚上人を開山として建立され、本尊は十一面観音菩薩である。竜巻に度々襲われ竜巻寺とも言われる。本堂には多くの仏像・文化財がある。伝行基作の薬師如来、脇侍には伝運慶作日光・月光菩薩、平安時代作不動明王像、文覚の筆による頼朝の位牌、頼朝自作と言われる自身の像、そして 1185 年平家滅亡の際、総帥の平宗盛が最後まで持っていたと言う「九方八千軍神」と書かれた「平家の赤旗」が有り、合戦の時多くの軍神に祈願していた事が分かる。「九方八千」は「くまばち」とも読むことがあるとのこと。毎年鎌倉まつりの頃公開されるそうである。</p> <p>続いて實相寺に向う。實相寺の法華堂の地は日本三大仇討の一つで、曾我兄弟の仇討で父の仇として討たれた工藤祐経の邸跡である。日蓮宗で開山は日蓮上人の一番弟子である日昭上人で工藤祐経の外孫に当たる。本尊は南無妙法蓮華経の題目の書かれた塔を中心に釈迦・多宝如来の両尊、四菩薩を祀る一塔両尊四士である。</p> <p>次に訪れたのは来迎寺。元は頼朝が三浦義明(三浦義村・和田義盛の祖父)の菩提を弔う為に建立した真言宗の能蔵寺であったが、開山の音阿上人が時宗に帰依した為改宗し来迎寺となった。境内には義明と孫の多々良重春の五輪塔、そして三浦一族の 100 余基の五輪塔が並んでいる。</p> <p>最後に向ったのは北条政子ゆかりの安養院。政子は頼朝の冥福を祈って長樂寺を建立したが焼失、現在の地にあった善導寺も焼失し二寺を併合し政子の法名である安養院を院号とした。本堂裏には政子の墓(供養塔)がある。</p> <p>探訪中は雨も降らず大河ドラマも交えての話もあり、楽しく探訪する事ができた。</p>	
参加者の状況・意見など： 雨は降らなかったが、どんどん暑くなって最後の方は疲れが出てきているようだった。度々水分補給の声かけをするようにした方が良いと思う。	
次回の予定： 令和4年9月9日(金) 創立 20 周年記念行事 13 時 講演会 「鎌倉草創・修羅の大河を行く」 金沢公会堂多目的室 16 時 懇親会 龍華寺 令和4年10月6日(木) 大道中学校前バス停 テーマ;鎌倉武士たちも歩いた塩の道	